

令和2年 第3回定例会（第2日8月7日）

〔質疑〕沖本

議長のご指名をいただきましたので、ざま大志会を代表して総括質疑を行います。質疑は、今定例会に上程されている諸議案のうち、議案第61号、令和元年度座間市一般会計歳入歳出決算の認定についてに絞り、平成31年第1回定例会で行った令和元年度当初予算編成におけるざま大志会の総括質疑と遠藤市長並びに当局からいただいた答弁を基に質疑を行います。

令和元年度の当初予算編成に当たっては、「第四次座間市総合計画の目指すまちの姿「ともに織りなす 活力と個性 きらめくまち」の実現のため、基本構想に掲げた9つの将来目標に沿った実施計画事業の着実な予算化を根幹に据えながら、事業の目的や効果、手法など、様々な視点からその点検及び経費の精査に取り組んだ」、以上のように示されております。そして、この実現のため、新規事業として、福祉部所管の総合福祉センター外装改修事業、子ども未来部所管の要支援・要保護児童管理システム導入事業、市民部所管の市民交流プラザ管理運営事業、消防所管の消防被服等更新事業の四つの事業、拡充事業として、健康部所管の市民体育館大規模修繕事業、福祉部所管の生活困窮者自立支援事業、子ども未来部所管の地域少子化対策推進事業、教育部所管の要保護及び準要保護生徒援助事業など九つの事業、継続事業として、市長室所管の総合防災備蓄倉庫等整備事業、都市部所管のキャンプ座間返還地公園、広場、緑地等整備事業など20の事業、合わせて33の事業が示されております。

こうした代表的な事業を含め、令和元年度予算編成における全体的な特徴について、遠藤市長に質疑を行いました。この質疑に対する遠藤市長の答弁の後半部分を抜粋させていただきます。

「第四次座間市総合計画の各施策を具現化した実施計画事業を着実に実施しました。その執行においては、職員一人一人が創意工夫を凝らして、執着心を持ってしっかりと残すものは残していく、最少の費用で最大の効果を上げるように努力し、節減に努め、それを余剰財源として活用する。こうしたことができた。令和元年度の当初予算においても、そうした限られた財源の中で、財政規律をとにかく重んじながら、各事業の所要額について精査に精査を重ね、組みさせていただき、一貫して今後さらに徹底をしてまいりたいと思っている。こうした工夫を重ねた結果、市民交流プラザ管理運営事業など新しい事業を含めて実施計画事業を網羅しながら、的確、確実な、また補正予算との連続性を持った当初予算編成ができたと考えています」と述べられております。

遠藤市長には、こうした総括質疑の答弁で述べられたことを踏まえて、当該年度決算に当たり、その結果を政策的な取組としてどのように評価をされているのか伺います。

また、前述の33事業のうち32事業を所管する市長室、市民部、環境経済部、健康部、福祉部、子ども未来部、都市部、教育部には、平成29年度事業や平成30年度事業の点検及び経費の精査に取り組まれたことにより、そこで得られた課題であるとか市民ニーズに応えるべくステップアップすべき案件はどのようなものがあつたのか、そしてその課題解決、ステップアップすべき案件の対応を図るため、令和元年度の拡充事業、継続事業はどのように取り組まれるのか、また、令和元年度新規事業はどのような手法で取り組まれるのか、代表的な事業を上げていただき、部署内や全庁的な議論や経緯を含め、それぞれの部署における事業方針を総括質疑で伺いました。

質疑に対する答弁では、市長室長からは総合防災備蓄倉庫等整備事業、また国際交流事業のうち姉妹都市中・高生交流事業について、市民部長からは市民交流プラザ管理運営事業について、教育部長からは情報通信技術環境整備事業などの主要事業について、環境経済部長と健康部長、子ども未来部長からは所管事業それぞれの特徴、課題を捉えた上での積極的かつ政策的な取組への考えをお示しい

いただきました。また、福祉部長からは生活困窮者自立支援事業を例に、課題の洗い出しを行い、さらなる市民ニーズの拡充を目指した居住支援推進事業と生活困窮者自立支援制度助言弁護士の取組への考えを、都市部長からはキャンプ座間返還地公園整備事業における三つの課題への対応と、そして欠点から利点を生み出せる柔軟な発想力で事業に取り組んでいきたいという考えもお示しいただきました。それぞれの部署におかれましては、当該年度決算に当たり、創造性や積極性を持って政策的に取り組まれた代表的な事業、一事業でも結構ですし、所管事業全体について総括的にでも結構なので、その結果と評価をお示しいただくよう求め、ざま大志会の総括質疑とします。（拍手）

〔答弁〕 遠藤市長

沖本議員から、令和元年度当初予算編成での政策的な取組としてどのような評価をしているかという私の見解を求めていただきました。

議員の質疑の中で、予算編成に際しての答弁の後半部分を引用していただきましたが、まさにそこに私が市政を執行していくに当たって肝に銘じ、そして職員に対して口を酸っぱく心がけるように方向づけをしていることが全て網羅をさせていただいておるわけでございまして、そうした一連のアクションが効果的になされたとは私は振り返りをしております。

これは前任者にも答弁をさせていただきましたけれども、とにかく私が尊重に尊重しているものは、この現在の第四次座間市総合計画に示す9つの将来目標とそれに従った実施計画事業の執行でございます。これこそが、あれだけ念入りに、そして時間をかけ考え方を集約をした計画、これからそれることなく対応していくこと、このことこそがやはり私に課せられた使命だと思っておりますし、私も行政当局側がこれに沿った施策を間違いなく、そして間断なく行っていくことこそが使命だと思っております。それをまた一つ具現化できた年度だとも思っております。

具体的な新規事業ですとか拡充事業ですとかは、例示をしていただきながら、これも質疑をいただきましたけれども、例えば市民交流プラザ管理運営事業につきましては、平成27年度から始まった小田急相模原駅前西区市街地再開発事業、これにおきまして、本市の北の玄関口に商業・公益棟が平成30年度に整備されたことに伴い、令和元年12月に開設した市民交流プラザ「プラっとざま」、これを管理運営するものであるわけでございます。

この小田急相模原駅前西地区市街地再開発事業というものは、これはもうかねてより大きな課題として本市が内包していたものでもございまして、先行して再開発が進んだ隣の相模原市の南区の部分と比較をして、どうしてもこれが遅延をしてきた部分がございます。しかし、地権者の皆さん、そしてこの設立をされた組合の皆さんの間断ない努力と、そして粘り強いお互いの考え方の集約によってこれがまとまり、これが具現化したわけでございまして、この中に時代にマッチした市の施策というものもしっかりと中に入れ込んでいくということは、やはり市のイメージ、そして市の考えるまちづくりの方向性を示す上でも非常に私は大切なことだと思っておりますし、それが具現化した一つの事業だと思っております。まさにこの商業・公益棟については、さらには第2子育て支援センターのざまりんのおうち「ひまわり」を大きく拡大をして、辰街道沿いから移転をさせたところでもあるわけでございまして、また、民間保育所の子どもの家ひまわり保育園も開設をさせていただいたということで、北の私どもの玄関口の顔として、子どもが取り進めようとしている地域のコミュニティの活性化醸成、さらには多世代間の交流、そして子ども・子育てに向けての駅至近の便利な部分への拠点整備といったようなことを象徴的に執り行うことができた事業ではなかったかと思っております。

しかしながら、これは、この年度終盤に発生しました新型コロナウイルス感染症の感染症拡大とい

う予想もしていなかった事態を受けて、特にコミュニティプラザの運営については、しばし困難な状況がございます。

しかしながら、こうした一連の市の考え方というものについては、地域の住民の皆さんにも理解を深めていただいていると思っておりますし、ぜひとも、今後、長期にわたって活用をしていただくことによって、市の活性化につなげていただければと思っております。

また、本市では決算において、義務的経費である扶助費の占める割合が年々大きくなってきているわけございまして、これがやはり、前任者への答弁でも触れさせてもらいましたが、全体の予算に占める自主財源と依存財源の比率にも反映をし、出てきているところでございます。

そんな中で、今の小田急相模原駅前西地区市街地再開発事業も含めて、いわゆる投資的経費というものを捻出して振り向けることが大変困難な状況もあったわけでございますけれども、そうした中でも、この事業も含め、その前の消防庁舎の建設、さらには総合防災備蓄倉庫への旧消防庁舎の転用といったようなことも含めて、決していわゆる簡単に市の一般財源を投じて箱物を残すといったような考え方ではなく、必要なものについて、市の財源だけではなく、国庫補助をうまく引き出し、これを活用し、さらには、例えば上下水道局の庁舎についても民間活力を導入しながらいち早くこの施設整備を行い、それによって空いた庁舎内のスペースに時代にマッチした子育て支援、そして福祉施策、さらには少子高齢化に対応した本市の健康部といったようなまさにこの時代が必要とするフロアスペースを拡充し、そこに例えばネウボラごまりのような拠点整備を行うということもかなっておるわけございまして、こうした全体のスキームというものが生きてきているということと、それがまた一つシンボリックにできた年度ではなかったかと思っております。

いずれにしましても、今後も、繰り返し述べさせていただきますけれども、議会の皆様に対しましては、総計予算主義の原則にのっとり、入りと出をしっかりとお示しを申し上げ、そしてまた、予算編成に際しては、繰り返し述べておりますように、皆様と共に策定をしたこの第四次座間市総合計画に沿った実施計画事業を明らかにし、これを予算化し、執行していく。このサイクルをしっかりと堅持しながら、これこそが市民とのお約束を果たしていくのだという責任感を持って、全庁を挙げて取り組んでいきたいと思っておりますし、そうしたことをまたお示しできた決算ではないかと思っております。

今後も厳しい財政状況ではございますし、ましてやこのコロナ禍、そしてそれに起因する恐らくは危機的な経済状況が日本経済、さらには世界の経済をこれから覆ってくるものと思っております。そうした中においても、一致結束して、それに備え対応していけるような、そんな心構えを持ってやっていきたいということをこの決算を振り返りながら決意をしているところでございます。

以上でございます。

〔答弁〕 企画財政部長

議案第61号の令和元年度に取り組んだ事業について、私から総括的に答弁させていただきます。

令和元年度に拡充した事業として、キャンプ座間返還地公園、広場、緑地等整備事業が上げられます。本事業は、改訂キャンプ座間チャペル・ヒル住宅地区返還跡地利用構想に基づく返還跡地における病院誘致や新消防庁舎建設など、一連の施設整備の集大成として、平成25年11月に策定した座間市都市マスタープラン運用方針（地域別構想・地域別都市づくりの方針「キャンプ座間返還跡地地域」）に基づき、平成27年度から実施した事業です。令和元年度は、市民体育館屋外駐車場の代替臨時駐車場を旧消防訓練場に設置するなどの準備工事を経て、（仮称）キャンプ座間返還地公園整備工事及び（仮称）キャンプ座間返還地公園補強盛土工事に着手しました。同公園整備工事は、高低差

約30メートルの斜面を削る一次造成工事であり、昨年発生した台風により多発した災害復旧工事で重機などの工事車両や交通整理員の確保に苦勞しましたが、順調に進捗することができました。また、一次造成工事で生じた建設発生土は、同公園補強盛土工事での活用に加え、相模川グラウンド災害復旧工事に活用するなど、本工事費を抑制しながら3年目の初年度を終えることができました。引き続き、令和3年度の事業完了に向けて、着実に事業を推進してまいります。

また、令和元年10月から幼児教育・保育の無償化が始まることから、令和元年第2回定例会において、新たに関連費用の補正予算を計上しました。その結果、幼稚園子ども・子育て支援事業費が3億3,000万円余増加するなど、扶助費が増額する大きな要因の一つとなりました。本市にとってその財政負担は非常に大きなものとなることから、無償化に要する経費は全額国費で負担することを求めましたが、基礎自治体が負担することとなってしまいました。

今後は、幼児期の教育及び保育の重要性に鑑み、本市がこれまで取り組んできた特定財源の確保と的確な予算執行に徹し、基礎自治体としての役割をしっかりと果たしてまいります。